

第 49 回

新千歳空港の 24 時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

令和 2 年 2 月 20 日開催

第 49 回新千歳空港の 24 時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日時 令和 2 年 2 月 20 日 (木) 18:30～19:50

・場所 リサイクルプラザ苫小牧

・議題

- (1) 住宅防音対策について
 - (2) 地域振興対策の進捗状況等について
 - (3) 北海道エアポート株式会社 (SPC) について
 - (4) その他
-

◎地域委員 出席者 (18 名)

◎北海道 (8 名)

◎ (公財) 新千歳空港周辺環境整備財団 (5 名)

◎苫小牧市 (7 名)

《オブザーバー参加》

◎北海道エアポート株式会社 (2 名)

1. 開会

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、定刻となりましたので、ただ今から、第 49 回「新千歳空港 24 時間運用に関する苦小牧市地域協議会」を開催いたします。

本日の協議会につきましては、お手元に配布しております次第に基づき、進めさせていただきます。

2. あいさつ

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、会議に先立ちまして、北海道の総合政策部長兼交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監）

協議会委員の皆様方におかれましては、大変お寒い中、また、本来ですと寛がれる時間帯だと思いますけれども、それにもかかわらず本日の協議会のご出席を賜りまして、心より御礼を申し上げます。

また、日ごろから、北海道の航空行政の推進に向けましてご協力を賜りましたこと、本当にこの場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

ご承知のとおり、先月の 15 日、全国初となる道内 7 空港の一括民間委託が、空港ビル施設の経営開始を皮切りにスタートしています。

また、春には、新千歳空港の発着枠が 1 時間あたり 42 便から 50 便に拡大されるというところで、皆様方のお陰を持ちまして、新千歳空港のさらなる発展が期待できるという状況でございます。そのような中、平成 27 年に遡りますが、皆様のご理解、ご協力の基に、深夜・早朝時間帯の発着枠拡大をしていただいたわけでございます。

昨年の夏ダイヤでは、1 日最大 17 枠が利用されておりました。また、昨年 4 月には 30 枠では初めての深夜・早朝時間帯によります国際定期便が就航しておりました。新千歳空港の 24 時間運用は、空港の発展の原動力という状況になっているところでございまして、改めて御礼を申し上げたいと思っております。

一方で、地域の皆様の安全安心な生活環境の確保とその地域の振興・発展のためにお約束をさせていただきました。住宅防音対策、さらには地域振興対策につきましては、引き続き、道と苦小牧市の皆様、更には財団が連携をしながら、着実に取組を進めてまいりたいと考えております。

本日は今年度 2 回目の協議会ということになりますが、報告事項といたしまして、住宅防音対策の高齢者の方々の優先枠ですとか、或いは、地域振興対策などについて後ほど担当者からご説明をさせていただく予定ではございますが、皆様から是非、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

また、今回の地域協議会から、道内 7 空港民間委託の運営権者でございます。北海道エアポート株式会社の皆様にも、オブザーバーとしてご出席いただいております。

本日は、提案事業の内容等について、後ほどご説明をさせていただく予定となっているところでございます。

北海道エアポート株式会社の皆様におかれましては、今後、30 年間にわたりまして様々な取組が

展開をされるということで、そういった取組が本道の活性化に寄与するものと、大きな期待を寄せているところをございまして、地域の皆様方と情報共有を図る非常に良い機会だと思っております。

そのようなわけで、本日は1、2時間近くかかると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

続きまして、苦小牧市の副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長）

皆様、お晩でございます。

本日は大変お忙しい中、夜分にもかかわらず、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃からご理解とご協力を頂いておりますことに対して、厚く御礼を申し上げます。

ただいま、総合政策部長からもお話がございましたが、新千歳空港の民間委託につきましては、本年1月、北海道エアポート株式会社様と、北海道及び7空港所在自治体において「北海道内7空港の一体的運営に関するパートナーシップ協定」を締結しております。

市といたしましては、今後、関係機関と緊密に連携しながら、航空ネットワークの拡大等を図り、本市はもとより、北海道経済の活性化につなげてまいりたいと考えているところでございます。

また、本日もご報告させていただきますが、植苗地区の地域振興対策であります道営住宅の整備や沼ノ端地区の文化交流サロンにつきましても、皆様のご意見等を伺いながら、スピード感を持って着実に実施してまいりたいと考えているところでございます。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対します御礼と協議へのご協力を心からお願いを申し上げます、簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いたします。

◎オブザーバーの参加者紹介及び出席委員について報告

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

次に、本協議会にオブザーバーとして出席いただきます「北海道エアポート株式会社」の紹介をさせていただきます。

地域共生部長でございます。

地域共生課長でございます。

この後につきましては、座って進めさせていただきます。

3. 議題

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、3の議題に入らせていただきます。

（1）「住宅防音対策について」を議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）

本日はよろしくお願いたします。

座って説明させていただきます。

それでは、早速、資料1をご覧ください。

昨年8月に開催されました地域協議会で、住宅防音工事の高齢者優先枠というものを試行として進めさせていただくということで、ご説明をさせていただきました。

こちらの資料1では、応募状況と言いますか、その結果についてご報告させていただきます。まず、1番の募集期間でございます。

令和元年10月1日から10月15日までの約2週間ほどを募集期間とさせていただきました。

次に、応募状況でございますが、高齢者優先枠は85歳以上の高齢者が1名以上居住している世帯を対象とし、申し込みの総数は61件となりました。

そのうち、今回の該当者10名の最高齢者は98歳、最年少者は94歳でありました。

また、該当者10名は、千歳市が8名、苫小牧市が2名となりました。

下の表では、今回該当しなかった93歳から85歳までの方の申し込み状況を、参考までに掲載しております。

この年齢層の申込者数は51名で、年齢別では89歳が12名と1番多く、次いで87歳が10名、86歳が9名となっています。

次に、3の施工までの流れでございますが、今回、工事候補住宅となった10件につきましては、昨年11月25日から29日にかけて、現地調査を行っており、今年度中に設計を実施し、本年4月以降に施工する予定となっています。

最後に、4の令和2年度以降の対応についてでございますが、今後、更に毎年度10名ずつを高齢者優先枠で施工した場合、86歳の方までの住居を約6年で施工することが可能となります。

特に、高齢の方の施工希望に対応できるものと見込まれますことから、令和2年度も高齢者優先枠を実施したいと考えているところです。

住宅防音工事高齢者優先枠の応募状況に係る説明につきましては、以上のとおりでございます。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長）

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

何かございますでしょうか。

ご質問なり、ご意見でも構いませんよろしいでしょうか。A委員。

● A委員

植苗地区では、外れている方もいらっしゃるのですが、高齢者優先枠ですけれども、一般の方々も非常に待っている方が植苗地区ではいるわけです。

苫小牧市さんは把握しているのかもしれませんが、半分行ったのでしょうか。

なるべくスピード感を持って、これは4年と言ったら、80歳以上の方は4年プラスですから、高齢者の方は基より、他の住宅防音を申し込んでも5年、10年という感じだと言われているという、ちょっとした町内の苦情の声もあるのです。

極力早い段階でやってあげたら良いのかなと思っている1人です。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、北海道から回答よろしいでしょうか。

● 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）

住宅防音工事の進捗というところがございます。

私どもは、新千歳空港の深夜早朝便の運航は、航空機騒音の影響を受ける空港周辺地域のお住いの皆様のご理解とご協力があって成り立つものと考えております。

住宅防音工事につきましては、航空機騒音の影響の大きな地域やその中であっても、高齢者や、乳幼児、障がい者の方のお住いの世帯などを優先して実施できるよう、それぞれに点数を付けて、計画的に工事を進めてまいりました。

1件でも多くということで、私どもも全力を尽くして、今後も苫小牧市、財団と連携をしながら、より多くの工事に着手できるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）**

現在の苫小牧市の状況でございますけれども、意向調査は362件いただいておりまして、実施済みが123件、34%まで済んでいる状況でございます。

●**北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）**

訂正させてください。

そのデータは去年のだと思うのですけれども、実施状況が123件というお話でしたが、117件です。

昨年、地域協議会で今年度16件工事するというご報告したのですけれども、その後に、6件の方が令和元年度中の工事は要らないということで辞退されてしまいまして、結果的には10件しか工事できなかったということになってございます。

今、室長も申し上げたとおり、362世帯に対して117件、工事を終えているという状況でございます。実施率としては32%ということになってございます。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）**

A委員。

●**A委員**

半分行ったのかなと思っていました。

断った方は何か理由があるのかもしれませんが、待っている方もかなりいるのです。

そこらへんのご配慮をいただいて、1件でも多くやっていただければと思います。

よろしく願います。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）**

その他、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

無いようでございますので、続きまして、(2)「地域振興対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道と苫小牧市から説明をお願いいたします。

●**北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）**

それでは最初に北海道から説明させていただきます。

地域振興対策の進捗状況等についてご説明させていただきます。

2ページの資料2をご覧ください。

まず、1の道営住宅植苗地区整備計画の変更についてでございますが、昨年の地域協議会において、第3期以降の整備にあたっては、3LDKの割合を増やして欲しいといったご要望がございまし

た。

今般、第3期の3LDKを増やすこととしたところでございます。

(1)の概要でございますが、第3期は2棟7戸を整備、内訳としては、3LDKが5戸、2LDKが2戸となっています。

全体計画は29戸、当初計画の30戸から変更してございます。

第3期の整備は、現在工事を進めている、第2期の応募状況を見て決定することとしております。

また、整備する住宅の一部を、小学生以下のお子様が同居する世帯を優先的に入居させる「特定目的住宅」として指定しております。

第3期における「特定目的住宅」の割合は、7戸の内、3LDKの2戸とし、残りを一般の住宅とします。

(2)の全体計画では、前計画と変更後の、内容を比較する表となっておりますので後ほどご覧いただければと思っております。太枠で囲った部分が今回の変更点となっております。

続きまして、沼ノ端地区の文化交流施設の整備でございますが、(1)概要は、文化交流サロン等の建設としています。

次に、(2)整備スケジュールですが、今年度は施設の在り方について市と地域で協議し、令和2年度には、用地購入、基本・実施設計、令和3年度には、実施設計を行い、令和4年度に、工事着工・完成を予定していると伺っております。道からの説明は以上でございます。

●苦小牧市（空港政策課長）

座ってご説明をさせていただきます。

私のほうから、資料2のうち、市が主体となって進めております、(仮称)沼ノ端鉄南地区における「文化交流サロンの整備」について、ご説明をさせていただきます。

資料2に添付している「参考資料」をご覧ください。

「①事業目的」と「②コンセプト」でございますが、こちらは、新千歳空港の深夜早朝30枠拡大に伴う地域振興対策として、沼ノ端鉄南地区である東開町に子ども向けの絵本などを充実させた「特色ある図書機能」に加え、地域の高齢者や障がいのある方などが集う「地域福祉の拠点機能」を併せ持った複合施設を整備するものでございます。

「③施設の機能」につきましては、資料中段にありますように、中央図書館と連携できる「図書機能」のほか、「福祉・健康活動機能」として、健康増進機器の設置や文化系サークルにおける練習の場などに利用できる多目的ホール、また、「地域交流機能」では、地域交流の場として活用できるパブリックスペースの整備や、「子育て支援機能」としては、子どもたちが豊かな読書体験ができるよう布絵本やバリアフリー絵本などを設置した絵本ホールを整備するなど、これら、4つの機能を併せ持った、複合施設として考えております。

右側のスケジュール(案)につきましては、先ほど北海道から説明ありましたが、本市では、令和2年度に土地の取得を計画しており、9月の補正予算で実施設計の予算計上を考えているところでございます。

今後につきましては、福祉部などの関係部署や、沼ノ端地域の方々との調整を行いながら、令和4年度中の完成に向け、進めてまいりたいと考えております。

私の説明は、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。B委員。

●B委員

道営住宅について、道と市の方についてお願いです。

植苗に道営住宅を建設中ですけれども、これは植苗・美沢地区の振興のためということで、建設されております。

しかし、現在建設している住宅が一杯にならなければ次はないとか、収入が多いから入居できないと断っていると、こういう言葉ばかりが聞こえてくるのです。

そこで、道と市は植苗の振興に責任を持ってあたってくれているのかなと、そういう気がしているのです。

建物を建ててしまえば、それで道は責任を果たしたよという感じではないかと感じているところです。

私はそうではないと思うのです。

植苗・美沢の振興というのを目的で造っていますから、目的は植苗・美沢の振興に寄与しなければならないと、私たちも入居等、色々努力しておりますけれども、道も市も共に協力して入居できるように努力して欲しいと思っています。

そして、最終的にあそこに、道営住宅ができて、植苗が発展して良かったなど、そう思える結果を作っていきたいと思っています。

ですから、私たちと共に、市と道も入居者を何とか入ってもらえるように努めて欲しい。

我々は造ってやったよ、あなた達は入れてください、入らなければもう造らないよ、これはちょっと冷たいのではないかなと思いますけれどもどうでしょうか。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

北海道から、まず回答いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）

北海道のほうから回答させていただきます。

道営住宅の整備ということでございますが、道営住宅の整備につきましては、国からの補助金を受けて整備するものでございまして、国との協議を経て、国の予算措置と連動しながら段階的に整備を進めていく必要がございまして、3期目の着工につきましては昨年の地域協議会の参考資料にも添付していたとおり、段階的に整備して、国との調整状況ですとか入居状況ですとか、そういったものを見ながら決定していくということでございます。

それで、空き家があるかないかということも含めて、検討されるものと考えてございます。

続きまして、お話のありました、収入基準というものでございますが、道営住宅につきまして、収入基準は条例で定めておりまして、道としては、植苗中央団地のみを対象として収入基準の緩和ということは今段階ではできないということは、ご理解いただければと思います。

ただ、私どもも、今まで植苗の皆様からご相談いただいていた方につきましては、収入基準で最初は駄目だというお話だった方が、実は違う階層で見たときに入れたとか、そういったこともございますので、もし、これまでにそういった入れなかったようなことがございましたら、私のほうに言っていただければ、その中で、果たして入れるかどうか再度検討してみたいと思いますので、よ

ろしくお願いいたします。

●苦小牧市（空港政策課長）

苦小牧市のほうからも、回答させていただきます。

入居者の募集につきましては、本市としても、昨年9月に入居者募集の案内チラシを市内の各保育所でしたり、或いは幼稚園、小学校、児童センター等に配布した他、昨年11月の広報とまこまいにも掲載をしているところでございます。

空室の対応につきましては、今後も引き続きアナウンスしながら空室の解消に向けて、北海道と共に市としても、できることはやっていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

よろしいでしょうか。

●B委員

一緒に協力してやっていって欲しいと思います。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

関連してということで、C委員。

●C委員

答えはいらないのですけれども、こういう住宅の入居関係は、管理会社のノウハウというのが非常に大事なのですよね、一般住宅もそうなのです。

北海道がどういう方に管理させているのかというのは聞いておりますけれども、顔が見えない状況ではないかなと思います。

先ほども、担当課長から、色々、収入の問題とか何とかあったようですけれども、そういうことは細かいのですけれども大事なことで、これは管理会社が把握しながらやるべきなのですよね。

基本的には、私はそう思うのですけれども、そういう意味で、管理会社をどのように選定しているのか、わかりませんが、おそらく北海道ですから、きちんとした対応をやられていると思うのですが、そこにサービスも含めて、是非、叱咤激励してやっていただきたいなど、そのように思っております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、ご意見ということでよろしいでしょうか。

●C委員

もし何かあれば、お願いします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

北海道から、よろしいですか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）

私のほうから、今、ご指摘のあった管理会社でございますけれども、この管理会社につきましては、道営住宅植苗中央団地をはじめとする、苦小牧市内、美唄市、芦別市、滝川市、深川市等といった、空知地域の一部、倶知安町、岩内町、余市町といった後志地域の一部、日高振興局管内と、主に東部地域の道営住宅、沢山の道営住宅の管理を道のほうから委任しております。

苦小牧市内にある窓口でお客様に対する対応について、不快な思いをされたということがあった

ことにつきましては、私としても大変申し訳なく思っているところでございます。

ご指摘があった窓口対応につきましては、担当部署から指定管理者に対し、入居を希望される方等には丁寧な対応や、わかりやすい説明に努めるなど、適切に対応するよう強く指導してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

D委員お願いいたします。

●D委員

今、担当課長さんが言って下さったように、北海道も私の目で見ると動いていないように見えるのです。

もうちょっと積極的に動いていただかないと、まだ今年度、着工していく用地も買っていない、こんなことでは、2期は終わったけれども、3期、4期と続いていかない。

こんな状態では30枠を通してあげた我々の胸の内は中々晴れないなど、そんな気がしてなりません。

そして、何とか植苗小中学校の子どもを増やしたいために一生懸命やっているのですけれども、今回入ったのは、60代の定年さんが2所帯も入るとか、我々が植苗地区の学校の子どもの増やしたいという意に対しては、そういう道のりは進んでいないように思えてなりません。

どうかそのへんも、南の会長が言ったようにもう少し、お役所であっても、この植苗地区の若者を育てるのだという要望をしてもらわないと、先ほどの課長さんのあれでは、全般的に北海道の成り行きもあるのだということは私たちも知ってはいますよ。

だけれども、30枠をあれだけ反対されたのを、私が南の会長の時に通して差し上げて、8年間も白紙撤回されていたものを、路線に上げたということを心してもらわないと、そのへんは今日道庁さんのトップで来ておられる総合政策部長さんも心していただきたいなと思います。

もうちょっと一般のものと違うものを作ってもらったということについて、やはり心してもらわないと、私はここまで言いたくはなかったけれども、年寄りばかり入れるのでは、植苗は福祉村と言うように、そういう施設が沢山あるのです。

そこにそれと同じ形を持ってきたのではなんの意味も無い。

やはり、子どもを産み育てるような家庭を優先して取ってもらおうと思って設けても、中々、今の担当されているところはあのせいだ、このせいだと聞こえてきます。

それを皆、課長のところに言っても中々全部、私の目で見ていると進んでいないように見えてなりません。

南の会長が言っているように、積極的に役人さんも動いて欲しいなと思います。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監）

会長さんから、厳しいご指摘もいただきました。

私たち道としても、合意していただいたこと、この事実については決して忘れることなく、地域振興を含めてしっかりとやっていきたいと思っております。

3期目の部分の建設については、非常に多くの課題はあるわけですが、会長の想いも、地域全体の皆様方の考え方を十分受け止めながら、道としてやれることを最大限取組んでまいりたいと思っております。

まず、これまでの建設された住宅の入居率を上げるという努力を道としても、頑張っってやっっていかなければならないと思っってください。

苫小牧市さんと連携した広報ですとか、或いは、苫小牧市内にある企業、事業所等、訪問して周知を図る、色々うちの職員も努力しているところではありますけれども、また、更にと組の強化をして、先ほど申し上げた、道としてできる最大限のと組を進めてまいりたいと思っってください。

是非、皆様としっかりと連携しながら、これからもと組を進めていこうと思っってくださいので、どうぞ、引き続き、ご指導いただければと思っています。

よろしくお願ひいたします。

●D委員

今いただいたお話で、くどいようですけれども付け加えたいのが、やはり、収入の面でこの金額は駄目だと言われるのですけれども、それを粘り強く対応すると入れる状態なので、そこを粘らせるようにお役所も持っていつてもらわないと、何人か跳ねられている。

歳をとっている者は、退職者等はそれが仕事でいけるけれども、若者はそこまでいけない状態ですから、それをもう少しフォローしてもらいたいなと思ひます。

もう二骨くらい折ってもらわないと、入られる人が入られないのを私は何年も経験しましたから、そこらへんも、苫小牧市さんも大いに協力して欲しいと思ひます。

これは道庁のものだという気持ちで苫小牧市さん、協力が足りないと思ひ。

よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

ご意見ということでよろしいでしょうか。

その他、ご質問ございますでしょうか。E委員、お願ひします。

●E委員

沼ノ端の文化交流サロンについてお聞きしたいのです。

道で作っていただきましたスケジュールを見ますと、令和2年に用地購入と基本設計、実施設計とあるのですが、苫小牧市のスケジュールを見ますと、基本設計という言葉が一つも載っていない。

これについて、どこで基本設計をするのか、それについてまずお答えを願ひたいと思ひのです。

●苫小牧市（空港政策課主査）

基本設計の時期のお話なのですけれども、大変申し訳ございません。

参考としております、資料の右側のほうにスケジュール案というのがあるのですが、そちらのほうに基本設計という言葉は載っていないのですが、実際には基本設計につきましては、実施設計の前までに、地域の方々のお話を伺いながら進めていきたいと思っっております。

●E委員

細かいことなのだけれども、基本設計も委託に出さないと駄目だから、補正を組まなくてはならないということになる。

そうすると6月からやるという意味合いなのかな。

だけれども、パブリックコメントが2月に予定しているとなると、実施設計が終わってからパブリックコメントをするといったらおかしくないですか。

僕が考えたのは、9月に基本設計と実施設計を委託に出して、基本設計を1月までに終わらせて、

それでパブリックコメントを求めて、そして、2月、3月に実施設計に入って2か年かかるというイメージで僕は捉えていたのだけれども、そうではなく、もう9月の補正が来る前に基本設計をやってしまうというのは、おかしくないかなと私は思うのです。

●苦小牧市（空港政策課主査）

基本設計につきましては、苦小牧市が自前で行う考えであります。

というのは、基本設計につきましては外注をしないで、我々と直接地域の話をついで進めていきたいと考えております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

補足ですが、通常、基本設計の委託をして、それから実施設計に入る、それもまた委託という形でやったり、基本設計と実施設計を一本で外注をしてやるというケースがございます。

今回のケースに関しましては、地域とのお話し合いがこれからということもありまして、基本的には私どもの担当部署で、都市建設部の建築課、ここの指導を仰ぎながら私どもが今、基本設計の形を作っております。

そのへんは建築課にしっかり確認を取りながら、ある程度のコンセプトを作っておけば、そのまま実施設計に持っていけるという指導の基にやっておりますので、そういう意味合いで私どもが基本設計をやっているということになっております。

●E委員

今回の建物は、非常に難しい建物で、素人が基本設計をできるような代物じゃないです。

今回の建物は、プロがやらないと基本設計なんて無理です。

やはり、そのへんを踏まえて委託しないと実際的に無理だと思いますよ。

基本設計どおりにいくわけではないですから、やはりプロに任せるべきだと僕は思います。

それと、パブリックコメント、こんなに遅くなったりしたら、完全に実施設計が決まってにっちもさっちもいかない。

パブリックコメントをやっても何の足しにもならないのではないですか。

日程的にどうなのですか。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

まず一点目の、基本設計に関しましては、ここはご理解いただきたく、業者に出すという形もありますけれども、しっかり都市建設部と調整して基本設計に準拠した形で私どもができるということで、一緒に取組んでおりますので、そのへんはご理解いただければと思います。

それから、実施設計については9月からということで、これは外注になります。

その後、2月からパブコメということになりますけれども、このへんについては、E委員のご指摘もあり、私どもとしては、実施設計、外注を出して、ある程度事業者に作ってもらってから、パブコメをやったほうが、絵的に見えるかなということで、この位置にしておりましたけれども、ここは業者が決まり次第、早めてパブコメをやることができますので、そのへんは柔軟に対応したいと考えています。

●E委員

これ以上言っても仕方がないので、しっかりそのへん取組んでいただいて、担当もありますから、建築のほうともしっかり相談しながらやっていただきたいと思います。

これで私の質問は終わります。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

他にございますでしょうか。

それでは、無いようでございますので、次に（3）「北海道エアポート株式会社（SPC）について」を議題といたします。北海道エアポート株式会社から説明をお願いします。

●北海道エアポート（地域共生部長）

よろしく申し上げます。

本日は、我々の会社説明をする機会を与えていただきまして、ありがとうございます。

空港運営につきましては、改めて申し上げるまでもありませんが、地元の皆様、中でも空港周辺の皆様のご理解、ご協力がなければ円滑に進まないと思っております。

そういう意味では、こういう場を通じて、また、これから皆様の色々なご意見を聞かせていただいて、事業運営に反映していきたいと思っております。

これから、30年に渡る長いお付き合いになりますので、色々ご指導をよろしく願いいたします。

それでは、今日は簡単なビデオを5分ほど用意しました。

今日の説明のエキスが入っておりますので、それを見ていただいて、お手元に資料をご用意しました。

それに合わせて15分位お話させていただければと思います。よろしく申し上げます。

～ビデオ放映～

ありがとうございました。それでは、お手元の資料3番をご覧ください。

1ページ目に会社の概要が書いてございますが、昨年の秋に、会社の設立登記を行いまして、管理者の皆さんと実施契約を締結して、今、まさしく6月の新千歳空港の運営開始を目指し、鋭意に取り組んでいるところでございます。

お手元に、株主のところをご覧くださいと、小さい文字で大変恐縮ですが、17社の会社名が書いてございます。

北海道空港をはじめとして、東京の企業と北海道の企業が一緒になって運営しようと、東京の企業で、これまで福岡空港、仙台空港、関西空港と民営化を進めた会社がございますが、そういった会社のノウハウと知見、並びに北海道の企業のネットワーク力を合わせて、しっかり会社を運営するとともに、北海道の経済振興に即していこうということで、今始めるところでございます。

次に、A4判の横の資料をご覧ください。

1ページ目を開いていただきまして、ビデオにもありましたが、ここに一つ、我々の目標が書いてございます。

左に、数値目標として7空港の旅客数を増大させたり、空港の路線数を増やしたり、外国人の来日、来道数を増やすという目標設定を書いておりますが、千歳は他地方6空港の底上げをするということに注力して、北海道全体で旅客の流動を促していこうというのが目標でございます。

そのための、事業戦略として、事業方針が4つございますが、ここに書いてございますように、7つの空港がございますので、それぞれ明確に役割を分担して、航空ネットワークを充実させてい

こうと、北海道には我々が行う7空港の他に、道内に13空港がございますけれども、そういった13空港も視野に入れて、一体となって運営していきたいという思いが一つございます。

それから2つ目で、デジタルマーケティングによる段階的な観光流動づくり、ということで、今SNS、並びに、皆さんスマートフォンを持っていらっしゃるということで、観光客もかなり、海外からのお客さんもそういった情報を事前にキャッチして、そういった情報に従って行動しているということが、非常に明確化になってきております。

それで、旅をする前、旅をしている途中、そして終わった後にしっかり情報を提供して、お客さんに北海道を知ってもらおうということを、これも色々な機関と連携してデジタルマーケティングを進めていこうというところでございます。

それから、北海道の魅力の発信と地域の活性化への貢献ということで、この事業はやはり株式会社ですので、商売ですから、株主に対しての配当も当然やってまいります。それ以外に北海道の経済振興を図るという目的がございます。

北海道、残念ながら47都道府県中、道民の県民所得が35位、34位というところであって、まだまだ潜在力に比べて伸び代があるなというところを感じているところでございます。

それを、東京の企業と、我々の北海道の企業が一体となって、何とかこの空港を一つのバネにして、経済効果を上げていきたいというところで、取組んでいるものでございます。

それから、一つ、安全・安心ということで、いろいろ言っても、空港の専業会社ですので、安全・安心が第一でございます。

そういった意味で、国、道が管理した空港が民間によって安全性が確保されないということが大きな問題になりますので、このへんについても注力してしっかりやっていると、この4本柱でこれから事業を展開してまいります。

2ページ目をご覧ください。4本柱の1つ目の、航空ネットワークの分散・拡大という項目がございますが、これについては、今、LCCの安い料金で飛行機に乗れるということで、LCCの需要が非常に旺盛でございます。

特にピーチ社という会社が、関西から釧路に定期就航したことによって、非常に道東方面に、関西からお客さんが来るし、北海道の道東方面の方が関西に行くというような、これも就航率が上がって地元経済に尽くしておりますが、そういった形で、東南アジア等含めて、東アジアも含めて、7空港のほうにLCCを誘致する、そして特に、東京、関西、中京圏との連携もまだまだ中央空港は不十分ですので、そのへんのLCC誘致に努めていこうというのが一つでございます。

2つ目が、7つの空港を上手く使ってもらおうということで、現状では、新千歳空港が全体の85%位の集客でございますが、それをもうちょっと平準化していくということで、横文字で恐縮ですが、オープンジョーと言って、ワニの口と言っているのですが、例えば、北京から千歳に来て、そして帰りは釧路から帰るということで、北海道内での旅客運賃を割安にさせていただいて、お客さんが回りやすいようなことをやっていこうということも今、検討してございます。

それから、路線誘致に関しては、これまで道庁さん、そして苫小牧市さんも精力的に動いていただいておりますが、これもやはり、我々も一緒になってやって、特に海外では、行政の方と一緒にいくと、信用力を付与されるということで、非常に路線誘致に有効であるという話もありますので、このへんはまた、道庁さん、苫小牧市さんともご協力させていただいて、運航していきたいと思っ

ております。

それと、後もう一つは、7空港の全てに、やはり路線誘致をする為には、給油設備とか、グランドハンドリングとか、そういったエアサイド人員の強化が必要ですので、そういう意味でもしっかり整備していこうという形でございます。

それから、3ページ目に移っていただきまして、こちらにつきましては、先ほどお話ししました、北海道の魅力発信と地域活性化への貢献、ということで、それぞれの空港ビルをショーケース化しようということで、情報発信の基地として、道内の企業の方々ともお話し合いをさせていただいて、色々な企業とか、自治体の皆さんの宣伝の場になるようなことも、今考えております。

それから、右側の方にいきまして、一応これは設備投資、空港による活性化に向けた設備投資なのですが、その予定をプロットしております。空港の活性化投資ということで、新たに、設備投資を行うものと、特に滑走路まわりのエアサイドのほうは、機能を更新する投資という2つに分けて、段階的にやっていく予定なのですが、まず、空港の設備につきましては、30年間の内10年位までに、少し積極的に投資をしていきたいなと思っています。中でも、駐車場の整備、それから旅客ビルの整備というのが、遅れている空港がございますので、このへんの施設の整備なりとかにも注力していこうと思っていますところ。

それから、下のほうに行きまして、安全・安心を最優先とした長期安定の空港運営、と書いてございますが、これは先ほどお話ししましたように、安心・安全ということで、空港のオペレーションを新千歳空港で集中的に統括していこうと、それぞれの空港でしっかり運営する他に、コントロールセンターとして千歳にそういう機能を持たそうということを考えております。

それから、これは地域共生と地域の皆様との信頼関係ということで、我々の会社に私と今日は2人で来ておりますが、地域共生部というセクションを設けました。

それで、各空港、7空港にもそういう仕事をする人間とも連携を取りながら、特に環境対策、騒音の関係、測定をはじめ、皆様との色々こういうお話し合いの場等を含めて色々交流をさせていただければなと思っています。

このへんについては、しっかり我々も、今日の前半のお話をお聞きしていましたが、我々も肝を据えてお付き合いさせていただければなと思っています。

それから、4ページ目に渡りまして、これは、新千歳空港のパートについて、提案概要で触れた内容でございます。

● F 委員

後で見る。

● 北海道エアポート（地域共生部長）

後で見ますか、はい、わかりました。

後、5ページ目、6ページ目、そういう形になってございますので、後でご覧いただいて、そういうことですので、ここで一回閉めます。よろしく申し上げます。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

A委員、お願いします。

●A 委員

何点かあるので、いっぺんに言います。

私だけ言ってもあれなので、ページ番号 13 ページ、この地域との関わり方ですけれども、苫小牧市とはどういう関わりをしようとしているのか。

また、これはエアポートさんだけではなく、苫小牧市も北海道エアポートをどういう関わり方を今後していくのかがまず 1 点。

今回は日本でも 7 ついっぺんですから、初めてなのかもしれませんが、他の日本の民営化した空港の最大の課題は、空港の 2 次交通とも言われているのですが、そこらへんはどのように対処していくつもりなのか。

また、先のことですけれども、滑走路のほうも今度、北海道エアポートさんがやっていくと聞いているのですが、我々が 1 番懸念しているのが、この融雪剤なのです。

この空港は沈砂池方式を取っているわけですけれども、下に美沢川をはじめ、ウトナイ湖、ラムサール条約の湿地があるわけなのですが、ここを、汲み取り式のリサイクル方式にする考えがあるのかということです。

今、国際ターミナルから誘導路も増えて、滑走路の面積と言うか、そういう飛行機が歩くところが増えたのかなと思っています。

今後のことですけれども、この空港はずっと沈砂池方式で、成分が無くなったら放流するなんてことを言ってらっしゃって、今もやっているのですが、世界の中でそういう空港は新千歳しかないのかなと思っているのです。

世界の空港は皆、汲み取ってリサイクルしているはずですよ。

そこらへんについても、まずお聞かせいただきたい。

個人的には先ほど言った、LCC、新千歳、羽田に、是非飛ばして欲しいのです。

できない事情があるのでしょうかけれども、1 便も飛んできているのかどうかはわかりませんが、成田は知っています。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

1 点目は地域との関わりで、北海道エアポートさんと市、それぞれどのように関わるかという質問です。

2 点目が、2 次交通をどう対応していくか。

3 点目が、滑走路の融雪剤の関係。

それから、4 点目に LCC ということでよろしいですか。

この 3 点目の融雪剤に関しましては、まだ、北海道エアポートさんは、ビル運営を 1 月から開始しておりますが、新千歳の滑走路は 6 月からの開始になりますので、その点はまだ回答が無いと思います。

6 月以降にお話を聞いていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●北海道エアポート（地域共生部長）

ありがとうございます。

まず、苫小牧市さんとの関わりについてお答えいたします。

苫小牧市さんについては、密接に今色々と検討させていただいておりますが、我々として7つの空港を運営するにあたって、地元自治体の皆様と、道庁の皆様を含めた協議の場ということで、7空港一体協議会というのを一つ持っております。

その他に、新千歳空港につきましては、苫小牧市さんにも千歳市さんにも入っていただいて、新千歳空港の空港別協議会というのを、今、構築する予定です。

設置の時期は4月から6月くらいにかけてだと思っておりますが、その中で、色々と我々が掲げている、路線誘致の問題とか環境の問題とか、それから観光開発をどうしていくのかという話し合いの場を、苫小牧市さんと色々と打ち合わせをさせていただいて、地域の方々に入っていただいて、我々とお話をさせていただくと、そういう協議会を設置して、これから定期的にお話を聞かせていただこうと思っております。これは1点目でございます。

それから、2次交通対策については、非常に我々も関心を強く持っています。

特に北海道の場合は、国内の他空港と比べて2次交通が今一つ不十分だというお声を沢山聞いておりまして、我々も提案の中では、JRさんとかバス、タクシー、そういう皆さんと今話し合いを色々と進めていまして、一体となった取組なんかも含めて、色々協議をさせていただいているところでございます。

●苫小牧市（空港政策課長）

それでは、苫小牧市からご回答をさせていただきたいと思っております。

北海道エアポートさんとの関わり合いになるのですけれども、先ほど部長もお話されておりましたように、空港別協議会というのを立ち上げまして、冒頭、副市長のほうからもお話ありましたが、本年1月にパートナーシップ協定と言う協定を締結させていただきまして、それに基づきまして、7空港一体の協議会を3月に立ち上げる予定としております。

空港別協議会についても4月から6月位の間、千歳市と苫小牧市と、それぞれの関係機関を加えて協議会のほうを立ち上げて、例えば、航空ネットワークの充実強化に関することだったり、或いは、広域観光の振興に関する事など、様々な協議をさせていただきたいと考えています。

今まで空整協と言いますか、機構さんが今やっております、駐車場の費用を原資として、地域への助成事業をやっておりますけれども、これを含めまして、北海道エアポートさんとは密接に関わり合いながら、上手く連携して地域の皆様の利便性向上について、還元したいと思っております。

以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

私からちょっと補足いたします。

今ほど、説明ありました通り、空港別協議会というのが北海道エアポートさん、それから周辺自治体が参画して色々な協議をして行きますけれども、ここで一番大きなところというのが、皆様方から出たご意見を、私どもが汲み取って、空港別協議会で話し合っって良い方向に持っていくというところですので、地域共生という位置づけ、地域の課題というのはそこでどんどん揉んでいくという形になってくると思います。

それから、2点目の2次交通ということで、先ほど北海道エアポートさんからも話がありましたけれども、1番苫小牧として関心があるのはJRの南伸だと思っております。

新聞で出ていまして、先ほど話が合ったとおり、北海道エアポートさん、それからJRなんかで

話し合いが進み、検討をしている段階ということでございますので、そのへんは市のほうで情報を集めてしっかり皆様方に情報開示、情報を出せる段階で出していきたいと考えております。

それから、4点目、LCCを是非新千歳にということをご意見いただきましたけれども、やはり新千歳を更に大きくするためには、LCCの活用なんかもできれば私たちもしたいと思っておりますので、先ほどの協議会等で私たちはしっかり挙げていきたいと考えております。

以上です。

●A委員

それでは、室長に空港の滑走路の融雪剤は後にしろと言われましたけれども、何十年もこれから運営するというので、そのことも言ったつもりなのです。

だから、そういうことを今後の課題として挙げて欲しいのです。

2次交通もあれですけども、この空港で1番の問題は、タクシーが居ない、駐車場が祭日連休、何時間も待たないと入れない、こんな空港は珍しいのです。

タクシーは、千歳のタクシーだけなのかもしれないけれども、ここらへんを改良しないとタクシー待ちに、何時間待ってもタクシーが来ない状況なのです。

苫小牧のタクシーが行って、人は降ろしても客は拾えない。

これから協議会をやるというからあれですけども、具体的に言わないとわからないと思ったから僕は言うのですけれども、僕なんかは飛行場に結構行きますけれども、土日、祭日、午前中は、第1、第2、第3もあるのかな、駐車場は何時間も並ばないと入れないときがたくさんあります。

だから、今後どのようにされていくかということ、そういう課題の中で言っていくのかもしれないけれども、是非もっと利便性の良い空港、文書で書くのは簡単ですけども、現実そうっていないのが現状でないかなと思っています。

ビルだけとされているのであれですけども、今度、滑走路の運営が始まったら、1時間の飛行はまた増やしますから、騒音の問題、この時にも言ったかもしれませんが、民間航空もコース逸脱が激しいわけですから、きちんとしたコースをきちんと遵守させる、そういうことを是非、北海道エアポートさんにも協力して欲しいなという1人です。

空から、どこでも飛んでも良いなんて言うことは、あり得ない話で、決まったルート飛ばないエアラインには、かなり指導して欲しいのです。

何故かと言うと、部品落下がひどいです。

民航機だって、あちこち外れて住宅に落ちる。

決まったコースを飛ばないで、こういうことをやる航空会社が全国では沢山あるのです。

だから、そこらへんもご指導いただきたいなと思っているわけなのです。

課題はいっぱいあるのですけれども、苫小牧市の認識では無いように思っているのかも知れませんが、我々は近くにいて非常に感じています。

是非、そこらへんも含めて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●北海道エアポート（地域共生部長）

貴重なご意見ありがとうございました。

常々、道庁さんと苫小牧市さんからも、空港運営にあたっての色々な留意点をご指導を受けてお

りますが、落下物についても、ちょうど明日、おりよくと言うかタイミングがあれなのですが、国交省の事務所と一緒にこの件を勉強することになっておりますので、しっかり問題があるということ肝に銘じて取組んで行きます。

ありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、私のほうから、まず融雪剤の関係です。

これは、しっかりこれまでも要望活動の中で融雪剤の関係は委員の皆様方からもご質問をいただいていますし、国のほうにも私ども、色々な打ち合わせをしておりますので、今後、北海道エアポートさんが滑走路の運用が始まった際には課題として、しっかり提起していきたいと思っております。

2次交通の関係は、タクシーだとかバスの関係もございました。

このへんの関係も当然、協議会のほうに挙げてまいりたいと思います。

例えば、タクシーというのは、既に規制は緩和されております。

ただし、他地域から乗り入れする場合は、ジャンボタクシー、大型のタクシーを持っている場合は空港に入って良いという条件がありまして、苦小牧の事業者で持っているのは1社しかいないという現状なので、苦小牧が行くだけで乗せて来られないという現状もございます。

そのへんも課題として、今後は挙げていきたいと思っております。

騒音の問題は、今回答をいただきました。

それと、一つ勘違いしていただきたくないのが、新千歳は今民間委託になりますけれども、管制についてはこれまで通り、国が管理いたします。

飛行ルートというのは、管制の指示に従いますので、これまでどおりの運用になりますので、部品落下など、心配な件でございますので、引き続き、協議会が違いますけれども、騒音対策協議会として、国に申し入れていく必要があると思っておりますし、北海道エアポートさんは空港の運営を担って行きますので、当然同じように航空会社に指導をしていただきたい、ということをお願いしたいと思っております。

以上です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

よろしいでしょうか。

●A委員

私だけ言ってもあれなので、最後にします。

この中のコンセプト、書くだけではなくて、地域の安全・安心なんて書くのであれば、そういうことも含めてやってもらいたいなという要望です。

管制は防衛のあれだということは、私どもは見学もしていますし、それは変わらないのはわかっています。

ですけれども、今、ビルから滑走路の着陸場をはじめ、皆、北海道エアポートさんがやることになるわけですから、それはただ、利益だけを追求するのではなく、そこらへんの安全をきちんと確保しながらやっていただかないと駄目なのかなと思っております。

北海道の7空港一括は、日本でも初めてかもしれませんが、やはり、安全・安心あつてか

らの空港運営ではないかなと思います。

そのへんについても、一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

これは、僕らも陳情団の一角ですから、それは百も承知で言っているのですけれども、これから民間になって上手くやってもらいたいという要望も兼ねてお願ひしているわけですから、是非、そこらへんも、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●北海道エアポート（地域共生部長）

どうもありがとうございました。

肝に銘じてまいります、よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

それでは、他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、無いようでございますので、最後に（４）「その他」を議題といたします。

北海道から何かございますでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）

無いです。

5. 閉会

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

それではご意見、ご質問が無いようでございますので、協議会の閉会にあたり、総合政策部長兼交通企画監から一言、ご挨拶を申し上げます。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監）

閉会にあたりまして、一言御礼のご挨拶を申し上げたいと思ひます。

本日も様々な観点から、ご質問をいただきまして、本当に心から御礼を申し上げたいと思ひます。

本日もいただいたご意見につきましては、可能な限り今後の取組に反映してまいりたいと考えてございますので、どうぞよろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。

本日、初めて、受託者の北海道エアポートさん、皆様方と初めての協議会ということになりました。

今、急速に地域の状況含めて色々と勉強を進められているところかと思ひますので、我々道としても、苫小牧市さんと連携をして、今まで持ち得ている情報ですとか、様々な地域課題についてもお互いに連携を強化して、共有しながら、少しでも良い取組が展開できるように、今後とも努力をしてみたいと考えてございますので、どうぞ皆様方、引き続き、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

●苫小牧市（まちづくり推進室長）

続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長）

マスクを着けたり外したりご無礼をお許しください。

本日は、住宅防音対策や地域振興対策の進捗状況をはじめ、空港運営の民間委託など、新千歳空

港を取り巻く様々な情勢などにつきましてご協議をいただき、ありがとうございました。

本日の協議結果を踏まえまして、ご報告申し上げました道営住宅や文化交流サロンの地域振興対策につきましては、北海道や地域の皆様と連携しながら、しっかりと進めてまいりたいと考えてございます。

また、最後にありました、北海道エアポートさんですけれども、委員からもご意見があった、これがまさに地域の要望と言いますか、意見でございますので、地域の関わり方、安全の確保等、今後滑走路の管理も始まりますけれども、そういった課題があるということをご今日からしっかり受け止めていただきたいと思いますし、私からもお願いをしたいと思います。

最後になりますが、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をお掛けしてきたところでございますが、今後とも、引き続きご理解、ご協力を心からお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

● **苫小牧市（まちづくり推進室長）**

それでは、以上をもちまして、第 49 回「新千歳空港の 24 時間運用に関する苫小牧市地域協議会」を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。